

実質化された人・農地プラン

注:本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
観音寺市	大野原町田野々地区(田野々集落)	令和4年3月25日	令和6年3月22日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	52.32 h a
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	39.03 h a
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	19.19 h a
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	8.52 h a
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	10.67 h a
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.97 h a
(備考)	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

愛媛県に接する中山間地域で、すでに荒廃農地B判定となった農地が8.30haあり、高齢化率も高くなっている。水稲中心に地元酒造メーカーとタイアップした酒米などの栽培を行っており、引き続き、営農に適した一団の農地は有効活用していく必要があるが、75才以上で後継者未定の農業者の耕作面積の方が7.55ha多く、さらなる農地の集約化と新たな受け手の確保が必要。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

田野々集落の農地利用は、これまで同様、中心経営体である認定農業者4経営体が集約を考慮しながら担うほか、40～50歳代の兼業農家が対応していく。

また、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを行う。

中山間地域の田野々集落協定に参加している農地面積は19.53ha、協定参加者は34人となっており、今後も協定農地を守っていくとともに、田野々集落営農組合(機械の共同利用・米麦の安定生産)の活動を通じ、後継者の育成を図る。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向 ※経営面積は現状面積を含む		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	○○○○	水稻	0.06 ha	水稻・麦	0.06 ha	田野々集落
認農	△△△△	米麦・養豚	3.43 ha	米麦・養豚	3.52 ha	田野々集落
認農	□□□□	米麦・露地野菜	2.59 ha	米麦・露地野菜	2.94 ha	田野々集落
認農	☆☆☆☆	米麦・露地野菜	1.10 ha	米麦・露地野菜	1.63 ha	田野々集落
認農	♠♠♠♠	米麦・露地・施設野菜	0.74 ha	米麦・露地・施設野菜	0.74 ha	田野々集落
認農法	(株)◇◇◇◇◇	水稻・露地野菜	2.23 ha	水稻・露地野菜	2.23 ha	田野々集落
			ha		ha	
			ha		ha	
計	6経営体		10.15 ha		11.12 ha	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

<p>■農地の貸付け等の意向 経営縮小等の意向が確認された農地は、59筆、31,416㎡となっている。</p>
<p>■農地中間管理機構の活用方針 耕作条件が厳しく、機構の取扱いがないため、これまで集落の大半が利用を考えていなかったが、今後は中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じた貸付けを進めていく。</p>
<p>■基盤整備への取組方針 離農に直結する老朽化した農道の補修・維持管理は行政の補助事業等も活用し、順次行っていく。</p>
<p>■鳥獣被害防止対策の取組方針 鳥獣(イノシシ・シカ)被害が顕著で、営農意欲を削ぐ大きな要因ともなっており、市や農業共済組合の補助制度を活用し、引き続き、侵入防止柵の設置等の面積を拡大するなどして対策していく。</p>
<p>地元酒造メーカーと取引している酒米(山田錦)は他品種に比べ収量が落ちてしまうため、耕作面積拡大の余地がある。 畦畔の維持管理に苦労しており、借受人・面積拡大の足枷となっており、抜本的な対策が必要となっている。</p>

(参考) 農地の貸付け等の意向(任意記載事項)

	農地の所在(地番)	貸付け等の区分(㎡)		
		貸付け	作業委託	売渡
1				
2				
3				
4				
5				
6				
	計	0.00		

注: 農業委員・農地利用最適化推進委員が農地の貸付け等の意向を確認した面積を農地利用最適化交付金の成果実績払いの対象とする場合には、人・農地プランにおいて地番、面積を記載することが必要です。

(留意事項)

本様式をそのまま公表様式として活用する場合には、中心経営体の氏名等特定の個人が識別される情報が含まれることから、本人の同意を得る等個人情報保護条例等に抵触しないよう留意してください。

なお、本人の同意が得られない場合には、その方の氏名を伏せるなど、個人が識別されないよう留意してください。